

震災後のアルコール関連問題に対するソーシャルワーカーの取り組み
石巻市における日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会の支援活動報告

日本アルコール関連問題
ソーシャルワーカー協会
被災地支援事業 藤田さかえ

1. はじめに

東日本大震災発災から3年を迎えた。アルコール関連問題は被災地では新たな地域の問題としてメンタルヘルスに関わる関係者は対応を余儀なくされつつある。宮城県石巻市では日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会（以下『ASW協会』という。）が平成23年9月から震災後のアルコール関連問題への介入に取り組んできた。平成24年度からは、みやぎ心のケアセンターと連携し、地域の関係者との協働体制を構築しつつある。本稿では平成25年度の活動報告を行い、支援の内容をその成果、今後の課題を提起するものである。

2. 事業の目的

本事業は被災地宮城県石巻市において東日本大震災後にアルコール問題を抱えた住民のメンタルヘルスのケアと安定した日常生活への復興支援を行い、アルコール関連問題に対応する地域への援助者に対して、必要な知識や情報の提供とアルコール問題を抱えた住民の対応についてコンサルテーションを行い、援助職のスキルの向上を計るものである。

3. 平成25年度の事業内容

事業目的を達成するためにASW協会は平成25年4月から平成26年3月まで毎月2回（第2金曜日と第4水曜日）、精神保健福祉士数名を石巻市へ派遣し、以下の内容の支援を行っている。①対応ケースのコンサルテーション、②本人あるいは家族を対象とした相談面接、③仮設住宅等への訪問を行う保健師への同行、④地域関係者との連携会議出席、⑤事例検討会、⑥住民向けの講習会の講師、⑦地域柄の援助職を対象とした連続講座や研修会企画・運営。いずれも石巻市健康推進課がコーディネートを行いASW協会はマンパワーの提供を行うという協働体制である。

4. 事業の経過とその成果

前年度から継続して個別支援である①②③④の対象となった支援は以下のとおりである。

(表1・2)。対応を依頼されたケース数は19件(新規10件・継続9件)。対応回数56回で、その内容は『訪問同行』、『対応ケースのコンサルテーション』『ケース会議参加』である。ケース会議の対象となったのは19件のうちの3件で、開催数は8回。出席者は地域包括支援センターの看護師及び社会福祉士、市社会福祉協議会災害復興支援対策課の地域福祉コーディネーター及びエリア主任及び支援員、みやぎ心のケアセンター保健師、市健康推進課の保健師、民生委員、虐待防止センター職員、実習生などである。事例検討の対象となった事例は2ケースで開催数は2回である。参加者は市保健師、みやぎ心のケアセンター、看護協会保健コーディネーター、地域包括支援センター、開成仮診療所、からころステーション、市社会福祉協議会仮設支援員等であった。

表1 平成25年度対応ケース数内訳

| 内訳 | 対応ケース数 |
|----|--------|
| 新規 | 10件 |
| 継続 | 9件 |

表2 平成25年度支援内容別件数・対応回数

| 支援内容 | 件数 | 対応回数 |
|--------------|--------------------|---------------------|
| 訪問とコンサルテーション | 9件 | 22回 (内家族のみ面接が3回) |
| コンサルテーションのみ | 10件 | 26回 |
| ケース会議 | 3件 (新規・継続ケースの内) | 8回 |

本年度は個別支援を継続すると同時に地域の援助者を対象とした以下の研修を開催した。

(1) アルコール研修基礎編

平成24年度からの継続で本年度は以下の研修を行った。

平成25年4月『地域での連携作り』

講師 大嶋栄子(NPO法人リカバリー) 参加数 25名

平成25年5月『アルコール問題の地域への援助(地域でどう支えるか)』

講師 佐古恵利子(リカバリハウスいちご) 参加数 41名

(2) アルコール研修実践編

平成25年11月 講義『アルコール関連問題について』

演習『わかりやすくアルコール問題を市民とともに考えるスキル』

講師 岡崎直人 岡田澄恵

12月 講義『アルコール家族支援について』

演習『問題を抱えた家族にどのように支援するか』

平成26年1月 講義『地域にアルコール問題を伝えるスキル』

演習『飲酒問題を抱えた人への関わり方』

(1)と(2)の参加者は行政、みやぎ心のケアセンター、医療、市社会福祉協議会仮設支援員、地域包括支援センター、看護協会、高齢、障害福祉関係者等である。また、(2)の研修の参加者実数は77名。全回参加数36名であった。この実践編の研修は地域の関係者から「アルコール問題の知識を得た研修を踏まえて、自分たちが地域へアルコール問題を介入し、自治会長さんや支援員さん、または一般市民に分かりやすくこの問題を伝えられる実践的なスキルを身に付けられる研修」の要望があり、ASW協会はこの要望に沿った研修を企画し開催した。全回連続して参加した参加者には修了書を発行した。

(3) 住民向け研修

平成25年8月 『アルコールとの上手な付き合い方』について

開催場所：石巻市大橋仮設住宅

対象：大橋仮設一般住民で、アルコール問題などで困っている方や興味のある方
仮設住宅の住民を対象としたアルコール問題の啓発研修。保健師、支援員、自治会長からの要望と協力のもとに開催をしたものでありASWにとっても貴重な経験となった。

(4) その他

本事業についてアルコール薬物問題全国市民協会季刊紙『Be!』の取材を受け113号(平成25年12月発刊)に『被災地のアルコール問題対策・自分たちで地域を変えていける力をつけたい』が掲載された。内容は平成23年からの事業の経過、被災地の飲酒問題の現状などについて述べたものとなった。

5. 今後の課題と展望

平成23年から継続して行ってきた支援は、地域の関係者向けの研修会を連続して開催したことで、地域の援助者が被災後に表面化したアルコール問題に主体的に取り組む機運をサポートするという成果に結びついた。アルコール関連問題は、地域の援助者にとっては『できれば避けたい』問題として、その対応の多くは、酩酊して地域で周囲に迷惑を掛ける問題飲酒者を警察対応で取り締まるか、専門病院や精神科医療機関に半ば強制的な入院で対応してきた。それは地域社会に迷惑を掛ける存在として認識され、排除という手段で解決がされてきていたのである。しかし、長引く復興の中で被災地の住民はごく普通の生活を取り戻すことができず、見えない不安がメンタルヘルスの問題を生み出すという問題意識を関係者が持つようになってきている。これはいずれの被災地でも

同様に見られることであるが、その中でアルコール問題も自死やうつ病と同様に看過できない被災地の問題として積極的な取り組みが始まっている。結果として排除から連携して対応するということが事例検討会のテーマとして取り上げられるようになった。特に石巻市では保健所、みやぎ心のケアセンター、地域包括支援センター、社会福祉協議会、医療機関等の様々な地域の援助機関の関係者が、仮設住宅の支援員や自治会長といった地域の中で役割を持った市民と積極的に連携をとり、住民への啓発や問題への介入に取り組もうとしている。

震災後3年目を迎えたが、これまで以上に被災地の復興には時間がかかることが明らかになっている。多くの被災者は仮設住宅の中であきらめずに粘り強く自分たちの生活の再建に取り組んでいる。このような現状の中で地域がアルコール問題に取り組む力をつけてゆくプロセスに関わり続けることが今後のASW協会の課題であるといえよう。